

医療・健康分野で協定

偕行会グループと京東健康

医療法人偕行会グループ（本部名古屋市中）は5日、

中国のECC（電子商取引）大手・京東グループの子会社である京東健康（シンドンヘルス）と「医療・健康分野における戦略的パートナーシップ」を締結したと発表した。

覚書に基づき今後は日中間の医療職の交流、共同研究の促進、教育機会の提供、国際会議の開催などで協力していく。

京東健康は2024年にプラットフォーム「京東海

外医療」を立ち上げ、中国国内ユーザー向けに世界の医療資源や情報の提供を行っている。今回の提携により、日本の医療機関との接続が拡大する見込み。

今回の提携は、京東健康が海外の健康診断や受診・治療などの医療サービスの

提携先拡大を進める中、偕行会グループが医療ツーリズムの受け入れ実績と国際認証取得体制を確立していることが背景となった。

偕行会グループでは、名古屋共立病院（名古屋市中川区）を中心に外国人患者の受け入れ体制を整備している。外国語表記の院内掲示物の設置、特別室の用意、国際認証（JMIP・JI

H）の取得、専門部署の設置などの取り組みを実施。24年度はグループ全体で3693人の外国人患者を受け入れ、中国人患者は54%を占めた。

これまでの取り組みが評価され、25年4月には「ヘルスケアアジアアワード2025」で「日本における年間最優秀メディカルツーリズム病院部門賞」を受賞している。



締結の様子

中部経済新聞の許可を得て掲載しています。記事内の「国際認証」の表現については、それぞれ国内団体からの認証・推奨の位置づけとなります。